

## 大学機関別認証評価結果について

### 1 評価結果

「横浜市立大学は、大学設置基準をはじめ関係法令に適合し、大学評価・学位授与機構が定める大学評価基準を満たしている。」

(詳細は参考資料 2 及び資料 7-2 参照)

### 2 認証評価の受審による主な成果及び効果

- ①認証評価・自己点検評価を通じて改善点を把握し、具体的な改善に取り組むことができた。
- ②単位の実質化、成績基準の明確化など、大学が取り組むべき事項について大学全体において再認識された。
- ③学内データ・資料等の収集・管理・分析が進み、I R 機能の重要性が認識された。

※Institutional Research 大学の運営データ等の情報を一元管理・分析し、大学経営等に活用する。

### 3 改善を要する事項の原因

自己点検・評価活動を通じて気が付いた改善を要する事項については、随時改善に取り組んできた。しかし、改善に取り組まざるを得なかった状況に至った原因については未整理であった。次期認証評価の受審に向けて、更なる体制の構築が必要である。

(詳細は資料 7-3 参照)

### 4 まとめ

初の認証評価受審に際して、平成 20 年度に評価センター・評価制度課が設置され、大学全体で組織的な自己点検評価に取り組み、21 年度には自己評価書のとりまとめ、書面及び訪問調査を経て、「基準を満たしている」という評価結果を得た。

しかし、対応が不十分であった事項、今後更なる改善に向けて取り組むべき事項等が多々確認されたことも事実であり、次期認証評価に向けての課題を次のように整理する。

#### 次期認証評価の受審に向けての課題

##### ①国による答申や法令改正・制度改正への対応

中教審による答申や設置基準の改正等に対して、所管部署・スケジュール・到達目標を明確にして確実に取り組む。

##### ②学位の質保証・教育の実質化への継続的な取組

学位審査、単位の実質化、体系的なカリキュラム、組織的な教育指導等、現状十分な対応が出来ていない課題に継続的に取り組む。

##### ③学部運営状況等の学務関連データの収集管理分析 (I R 機能)

現状をデータで明確に把握し、データのフィードバックによる P D C A サイクルを機能させ、不断の改善を図る。

教員と職員の協働による**大学運営への具体的な反映**が重要！！

- ✓ 知っているだけでは意味がない！
- ✓ 具体的な行動まで結び付ける！

事例（あくまで一例として）

★大学設置基準等国の施策への取り組み

①課題把握

毎年3月に、翌年度に施行される大学設置基準の改正点等についての説明会が開催される。

②現状把握（課題の明確化）

- ・ベンチマーク資料を収集する。（他大学等調査）
- ・現状について整理・分析し、課題を明確化する。

③対応の方向性

- ・（内容に応じて）理事長、学長、副学長、学部長、事務局長等への報告と対策の方向性を確認する。

④責任の明確化・実施

- ・方針を明確にした上で、各部署の役割及び期限等を定めて対応を進める。

